

21 聖所

1. 聖所の学びの大切さ

「天の聖所は、人類のためのキリストのお働きの中心そのものである。

それは、地上に生存するすべての者に関係している。それは、贖罪の計画を明らかにし、われわれをまさに時の終わりへと至らせて、義と罪との戦いの最後の勝利を示してくれる。

すべての者が、これらの問題を徹底的に研究し、彼らのうちにある望みについて説明を求める人に答えることができるようにすることは、何よりも重要なことである」。

『各時代の大争闘』下222頁

1. 聖所の学びの大切さ

善と悪の大争闘・三天使の使命の論点は、
神の御品性・律法の正当性・十字架の救済
の妥当性が証されることである。

1. 聖所の学びの大切さ

「キリストが地上に来られたのは、人間を救うためだけではなく、それは、宇宙の前で、神の性質を擁護するためであった。…」

人間の救いのためにキリストが死なれた行為は、人間が天にはいる道を開いたばかりでなく、神とみ子が、サタンの反逆に対して取られた処置の正当性を全宇宙の前に示すのであった。

それは、神の律法の永遠性を確立し、罪の性質とその結果を明らかにするのであった」。

『人類のあけぼの』上61-62頁

2. 聖所とは

神様が住む所 (出エジ25:8 33:7)

王の支配 (詩編47:7-10)

礼拝の場 (黙4章5章)

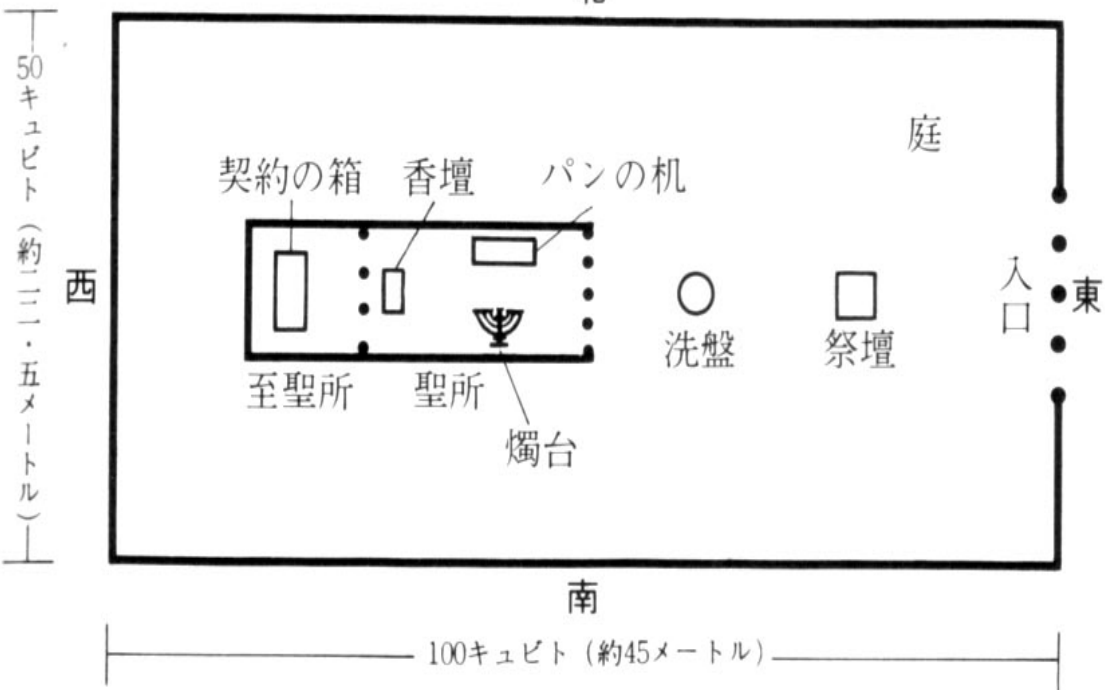
法廷 (詩11:4-7、ハバクク2:20)

救いの場 (ヘブ9:11-12)



幕屋の平面図

北



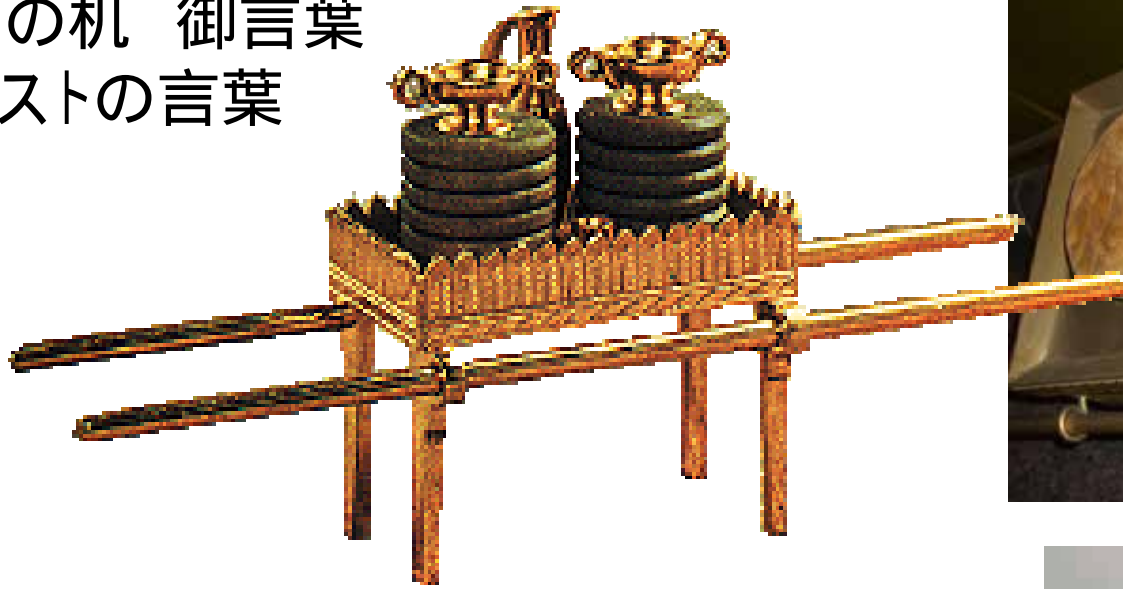


洗盤 清め バプテスマ



祭壇 キリストの十字架

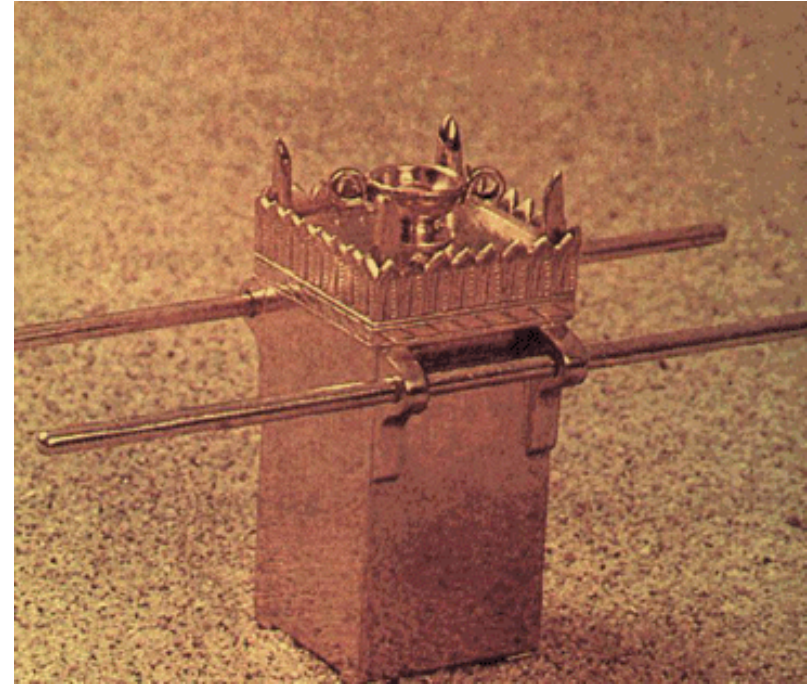
パンの机 御言葉
キリストの言葉



燭台 光 キリスト 聖霊



契約の箱 キリストの贖い 律法 臨在



香壇 キリストの祈り

日ごとの奉仕 → 十字架
動物の上に手を置いて、
自分の罪を動物に移す。
その動物が捧げられ、
その血が聖所にふりかけられ、
罪が聖所に移される。

年毎の奉仕(贖罪日)

聖所に移した罪を消し去る。→聖所の清め
→1844年・再臨前審判

4 . 贖罪日の儀式(年ごとの清め) → 再臨前審判

レビ16:33

至聖所、臨在の幕屋および祭壇を清め、
祭司たちと民の全会衆のために贖いの儀式を行う。

レビ16:30

なぜなら、この日にあなたたちを清めるために贖い
の儀式が行われ、あなたたちのすべての罪責が
主の御前に清められるからである。

祭司のための清めの献げもの→雄牛一頭
(焼き尽くす献げもの雄羊一匹)

聖所とイスラエルの清め→主のための雄山羊

罪の除去→アザゼルの雄山羊



アザゼルの山羊の儀式は、大祭司が聖所全体の贖罪を終えた後のことでした。この点はいくら強調しても、しすぎることはありません。後から行われた、アザゼルの山羊を用いての儀式は、聖所や人々の実際的な清めとは無関係でした」(『聖所』42頁)。

アザゼルの山羊を用いる儀式と、悪意のある証言者に関する律法(申19:16~21)との間には、類似点があります。原告も被告も、祭司や裁判官としてあらわれている主の前に立ち、取り調べがなされ、もし原告が悪意のある証言者であるとわかったなら、彼は無実の被告に求めた罰を自身に受けることになるのです(同42頁)。

レビル16:21

アロンはこの生きている雄山羊の頭に両手を置いて、イスラエルの人々のすべての罪責と背きと罪とを告白し、これらすべてを雄山羊の頭に移し、人に引かせて荒れ野の奥へ追いやる。16:22 雄山羊は彼らのすべての罪責を背負って無人の地に行く。雄山羊は荒れ野に追いやられる。

申命記19:18 - 21

裁判人は詳しく調査し、もしその証人が偽証人であり、同胞に対して偽証したということになれば、彼が同胞に対してたくらんだ事を彼自身に報い、あなたの中から悪を取り除かねばならない。ほかの者たちは聞いて恐れを抱き、このような悪事をあなたの中で二度と繰り返すことはないであろう。あなたは憐れみをかけてはならない。命には命、目には目、歯には歯、手には手、足には足を報いなければならない。

黙示録20:3

底なしの淵に投げ入れ、鍵をかけ、その上に封印を施して、千年が終わるまで、もうそれ以上、諸国の民を惑わさないようにした。その後で、竜はしばらくの間、解放されるはずである。

5. 再臨前審判

「二千三百の夕と朝の間である。そして
聖所は清められてその正しい状態に復する」。

ダニエル8:14

1844年に何が起きたのか？

再臨だと思っていたが、違った。

失望して離れる者。 聖書につながる者。

「聖所が清められる」とは何か？

ニツダク→義と宣言される、

正しさが証明される(疑いが取り去れる)。

審理し、無罪とし、救済する過程。

神様の御名が再び崇められ、

神を信じてきた民の正しさが明らかにされる。

再臨前審判では何かなされているのか 信徒の擁護と承認

調査は慎重さと公正さを要し、しばしば公の場でなされます。神は他者に御自分がしておられることを見せになります。このようにして、神が判決を下すときに、それが救いであろうと、有罪判決であろうと、見物人たちは、神の決定は最善だ、と確信するのです。これこそがまさに、ダニエル7章の天の裁判に巻物が登場する理由です。巻物は神のためのものではありません。神が思いだすためのものではありません。これは天の住人(神のように全てを知らない者たち)のためのものなのです(同62頁)。

再臨前審判では何かなされているのか 信徒の擁護と承認

再臨前審判は、裁き主が御自分の民を救うことにおいて公正であられるということを示すものです。聖徒たちは救っても安全な存在だ、と天の住人たちが納得する必要があるのです(同63頁)。

再臨前審判では何かなされているのか 信徒の擁護と承認

再臨前審判は私たちの救いの確証を脅かすでしょうか。いいえ、そのようなことはありません。この裁きの結果は確かであり、「聖徒のため」(ダニ7:22)のものだからです。裁きにおける神の働きは、私たちの救いを改めて明言し、私たちの罪を永遠に無関係なものとすることによって、私たちの確信を強めます(『聖所』65頁)。

再臨前審判では何かなされているのか 信徒の擁護と承認

「審判という言葉は、それによってある人の運命が決定されるということを暗示するために、適切でないかもしれない。これはそうではないのである。それはむしろ監査といった方が正しいであろう。支払われた請求書の監査は、ただ負債が清算されていることを証明するだけである。監査においてはいかなる決定もなされない。監査はただ確認するだけである。ゆえに調査審判は再臨前の天の監査と表現した方がより適切であろう」(山形謙二『主よ、み国を！』190頁)。

再臨前審判では何かなされているのか 信徒の擁護と承認

「サタンは、神の子供たちを非難し、できれば彼らを絶望におとしいれようとしている。彼は、神の民の悪行と欠点を神の前に述べたてる」(『キリストの実物教訓』148頁)。

再臨前審判では何かなされているのか 信徒の擁護と承認

「サタンは自分が神の民に犯させた罪を、正確に知っている。そしてサタンは、彼らが罪を犯したから神の保護を受けられなくなったと言って告発し、自分には彼らを滅ぼす権利があると主張するのである。彼は彼自身と同様に、彼らも神の恵みから除外されるべきであると言うのである。『この人々が、天におけるわたしの場所を占め、わたしといっしょになった天使たちの場所を占める人々であろうか。彼らは、神の律法に従うと言っている。しかし、彼らはその戒めを守ったであろうか。』

再臨前審判では何かなされているのか 信徒の擁護と承認

彼らは神を愛するよりは、自己を愛したのではなからうか。彼らは神に仕えるよりは、自分の利益を重んじたのではなからうか。彼らは、この世の物を愛したのではなからうか。彼らの生涯を汚した罪を見よ。彼らの利己心、互いに対する彼らの悪意、憎しみを見よ。神は、わたしとわたしの天使たちをみ前から追放しながらも、なお、同じ罪を犯したこれらの人々に、報いをお与えになるのであるか。ああ主よ、あなたはそのようなことを行っては、公平ではない。正義は彼らに対しても、宣告が発せられることを要求する』、とサタンは言うのである。

再臨前審判では何かなされているのか 信徒の擁護と承認

しかしキリストに従った人々は、罪を犯しはしたけれども、全的に降伏してサタンの手下たちに支配されてはいなかったのである。彼らはその罪を悔い改めて、謙遜と悔恨の念をもって主を求めた。そして助け主であられるイエスは、彼らのために嘆願されるのである。彼らの忘恩によって最もひどい取り扱いを受けられたかた、また彼らの罪を知るとともに、その悔い改めをも知っておられるかたが言われる。

再臨前審判では何かなされているのか 信徒の擁護と承認

『サタンよ、主はあなたを責めるのだ。わたしはこの人々のために、わたしの生命を与えた。彼らは、わたしのたなごころに彫り刻まれている。彼らの品性に不完全なところがある。彼らは、努力して失敗したこともある。しかし彼らは悔い改めた。そしてわたしは、彼らを赦し受け入れたのである』(『国と指導者』下194-195頁)。

再臨前審判では何かなされているのか 信徒の擁護と承認

「神の民と認められた人々が、汚れた服を着て主の前にたっているように描かれている事実は、主の名前を公言するすべての者が、深く心を探り、謙虚になるように導くであろう。真理に従うことによって魂を清めつつある者たちは、自分に対して最も謙虚な意見を持つであろう・・・しかし、私たちは自分の罪深い状態を自覚すべきである一方、私たちの義、聖化、贖罪としてのキリストに信頼しなければならない。

再臨前審判では何かなされているのか 信徒の擁護と承認

私たちは、私たちに対するサタンの非難に反論することができない。キリストだけが、私たちのために有効な弁護をすることがおできになるのである。キリストだけが、私たちの功績ではなく、彼自身の功績に基づく議論によって、非難する者を沈黙させることがおできになるのだ」(『教会へのあかし』5巻471-472頁英文)。

再臨前審判では何かなされているのか 神の擁護と承認

「二つの制度間の靈的鬭争の正邪が裁定され、全宇宙の面前で神が真実な方であるとされるのです。換言すれば、再臨前審判は、サタンや彼に追従する者たちも含むすべての被造物の面前において、聖なる者たちばかりでなく、神をも擁護する働きなのです (ファンデル『ダニエル』95頁)。

「今この時に義を示されたのは、御自分が正しい方であることを明らかにし、イエスを信じる者を義となさるためです」(ロマ3:26)

再臨前審判では何かなされているのか 正しい裁きの擁護と承認

神の正義は、人類の罪に対する罰の償いを要求します。神の愛は、人間を神との交わりへ回復しようとしています。神はいかにして、その両方をあらわすことができるでしょうか。

「真実なものを偽りのものからふるいわけて真実な信徒を救う神の正義を、歡心をもって見守っている宇宙に対して明らかにするため、さばきが再臨前に必要なのです。問題は神と宇宙との間にあるのであって、神と真の神の子との間にはありません」(『アドベンチストの信仰』569頁)。

再臨前審判では何かなされているのか 罪の清め

「このとき、真に悔い改めたすべての者の罪は、キリストの贖罪の血によって、天の書物から消される。こうして、聖所から罪の記録が除かれ、きよめられるのである。象徴においては、この大いなる贖罪のみわざ、つまり、罪を消し去ることは、贖罪の日のつとめによってあらわされた」（『人類のあけぼの』上422頁

再臨前審判では何かなされているのか 罪の清め

「大争鬪は終わった。もはや罪はなく罪人もいない。全宇宙はきよくなった。調和と喜びのただ一つの脈拍が、広大な大宇宙に脈打つ。いっさいを創造されたおかたから、いのちと光と喜びとが、無限に広がっている空間に流れ出る。最も微細な原子から最大の世界に至るまで、万物は、生物も無生物も、かげりのない美しさと完全な喜びをもって、神は愛であると告げる」(『各時代の大争鬪』下467頁)。

6．現代人に対する勧告（ヘブライ10:19～より）

確信せよ（ヘブライ10:19～25）

清められよ（ヘブ10:22）

6. 現代人に対する勧告 (ヘブライ10:19~より)

確信せよ (ヘブライ10:19~25)

清められよ (ヘブ10:22)

「その典型的な奉仕は、神とイスラエルとをつなぎとめることであつた。いけにえの献げ物は、キリストの犠牲を予表し、それによって来るべき贖い主へのゆるぎない信仰を人々の心の中に保つことを意図していた。それゆえ、主が彼らのいけにえを受け入れ、彼らとともにあり続ける一方で、人々が救済計画に対する正しい知識を持ち、彼らの義務を正しく理解するために最も重要なのは、心の聖さと生活の清さ、神に対する畏敬、神の御要求に対する完全な服従が、聖所に関係するすべての者によって維持されることであつた」(エレン・G・ホワイト『SDA聖書注解』2巻1010頁)。

6. 現代人に対する勧告 (ヘブライ10:19~より)

確信せよ(ヘブライ10:19~25)

清められよ(ヘブ10:22)

私たちが神に近づくにつれて、聖さのうちに成長することを望んでおられます。このような変化は、私たちの罪深い性質を捨て去り、結果がどうであれ、正しいことをしようという意欲によってのみ生じるのです(『聖所』27頁)。

6 . 現代人に対する勧告 (ヘブライ10:19 ~ より)

確信せよ (ヘブライ10:19 ~ 25)

清められよ (ヘブ10:22)

愛せよ (ヘブ10:24)

21 聖所

1. 聖所の学びの大切さ

「天の聖所は、人類のためのキリストのお働きの中心そのものである。それは、地上に生存するすべての者に関係している。それは、贖罪の計画を明らかにし、われわれをまさに時の終わりへと至らせて、義と罪との戦いの最後の勝利を示してくれる。すべての者が、これらの問題を徹底的に研究し、彼らのうちにある望みについて説明を求める人に答えることができるようにすることは、何よりも重要なことである」(『各時代の争闘』下222頁)。

善と悪の大争闘・三天使の使命の論点は、神の御品性・律法の正当性・十字架の救済の妥当性が証されることである。

「キリストが地上に来られたのは、人間を救うためだけではなかった。・・・それは、宇宙の前で、神の性質を擁護するためであった。・・・人間の救いのためにキリストが死なれた行為は、人間が天にはいる道を開いたばかりでなく、神とみ子が、サタンの反逆に対して取られた処置の正当性を全宇宙の前に示るのであった。それは、神の律法の永遠性を確立し、罪の性質とその結果を明らかにするのであった」(『人類のあけぼの』上61-62頁)。

2. 聖所とは

神様が私たちと共に住む所(出エジ25:8 33:7)

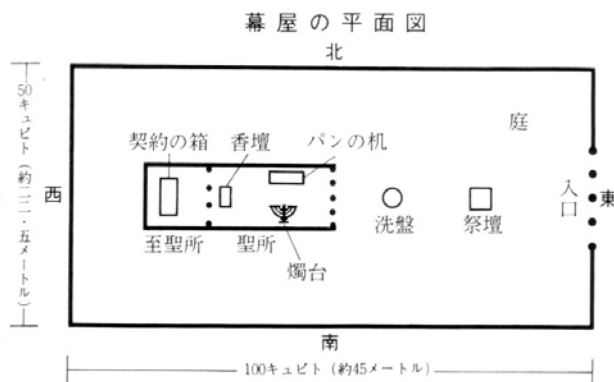
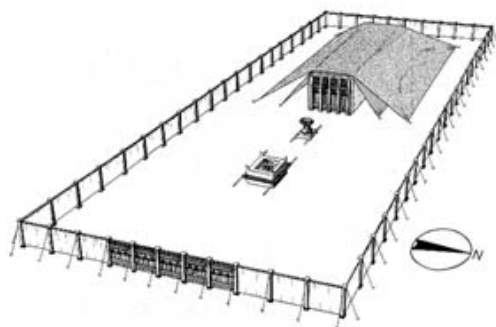
王の支配(詩編47:7-10)

礼拝の場(黙4章5章)

法廷(詩11:4-7、ハバクク2:20)

救いの場(ヘブ9:11-12)

3. 地上の聖所 天国の型



祭壇 キリストの死 洗盤 清め 燭台 光キリスト聖霊

パンの机 キリスト言葉 香壇キリストの祈り 契約の箱 贖い 律法

日ごとの奉仕 十字架

動物の上に手を置いて、自分の罪を動物に移す。その動物が捧げられ、その血が聖所にふりかけられ、罪が聖所に移される。

年毎の奉仕(贖罪日)

聖所に移した罪を消し去る。 聖所の清め 1844年・再臨前審判

4. 贖罪日の儀式(年ごとの清め) 再臨前審判

レビ16:33 至聖所、臨在の幕屋および祭壇を清め、祭司たちと民の全会衆のために贖いの儀式を行う。

16:30 なぜなら、この日にあなたたちを清めるために贖いの儀式が行われ、あなたたちのすべての罪責が主の御前に清められるからである。

祭司のための清めの献げもの 雄牛一頭(焼き尽くす献げもの雄羊一匹)

聖所とイスラエルの清め 主のための雄山羊

罪の除去 アザゼルの雄山羊

アザゼルの山羊の儀式は、大祭司が聖所全体の贖罪を終えた後のことでした。この点はいくら強調しても、しすぎることはありません。後から行われた、アザゼルの山羊を用いての儀式は、聖所や人々の実際的な清めとは無関係でした」(『聖所』42頁)。

アザゼルの山羊を用いる儀式と、悪意のある証言者に関する律法(申19:16~21)との間には、類似点があります。原告も被告も、祭司や裁判官としてあらわれている主の前に立ち、取り調べがなされ、もし原告が悪意のある証言者であるとわかったなら、彼は無実の被告に求めた罰を自身に受けることになるのです(同42頁)。

レビ16:21 アロンはこの生きていた雄山羊の頭に両手を置いて、イスラエルの人々のすべての罪責と背きと罪とを告白し、これらすべてを雄山羊の頭に移し、人に引かせて荒れ野の奥へ追いやる。16:22 雄山羊は彼らのすべての罪責を背負って無人の地に行く。雄山羊は荒れ野に追いやられる。

申命記19:18 - 24 裁判人は詳しく調査し、もしその証人が偽証人であり、同胞に対して偽証したということになれば、彼が同胞に対してたくらんだ事を彼自身に報い、あなたの中から悪を取り除かねばならない。ほかの者たちは聞いて恐れを抱き、このような悪事をあなたの中で二度と繰り返すことはないであろう。あなたは憐れみをかけてはならない。命には命、目には目、歯には歯、手には手、足には足を報いなければならない。

黙示録20:3 底なしの淵に投げ入れ、鍵をかけ、その上に封印を施して、千年が終わるまで、もうそれ以上、諸国の民を惑わさないようにした。その後で、竜はしばらくの間、解放されるはずである。

5. 再臨前審判

「二千三百の夕と朝の間である。そして**聖所は清められて**その正しい状態に復する」(ダニエル8:14)。

1844年に何が起きたのか？

再臨だと思っていたが、違った。失望して離れる者。聖書につながる者。

「聖所が清められる」とは何か？

ニツダク 義と宣言される、正しさが証明される(疑いが取り去れる)。

審理し、無罪とし、救済する過程。神様の御名が再び崇められ、神を信じてきた民の正しさが明らかにされる。

再臨前審判では何をなされているのか

信徒の擁護と承認

調査は慎重さと公正さを要し、しばしば公の場でなされます。神は他者に御自分がしておられることをお見せになります。このようにして、神が判決を下すときに、それが救いであろうと、有罪判決であろうと、見物人たちは、神の決定は最善だ、と確信するのです。これこそがまさに、ダニエル7章の天の裁判に巻物が登場する理由です。巻物は神のためのものではありません。神が思いだすためのものではありません。これは天の住人(神のように全てを知らない者たち)のためのものなのです(同62頁)。

再臨前審判は、裁き主が御自分の民を救うことにおいて公正であられるとすることを示すものです。聖徒たちは救っても安全な存在だ、と天の住人たちが納得する必要があるのです(同63頁)。

再臨前審判は私たちの救いの確証を脅かすでしょうか。いいえ、そのようなことはありません。この裁きの結果は確かであり、「聖徒のため」(ダニ7:

22) のものだからです。裁きにおける神の働きは、私たちの赦しを改めて明言し、私たちの罪を永遠に無関係なものとすることによって、私たちの確信を強めます(『聖所』65頁)。

「審判という言葉は、それによってある人の運命が決定されるということを示唆するために、適切でないかもしれない。これはそうではないのである。それはむしろ監査といった方が正しいであろう。支払われた請求書の監査は、ただ負債が清算されていることを証明するだけである。監査においてはいかなる決定もなされない。監査はただ確認するだけである。ゆえに調査審判は再臨前の天の監査と表現した方がより適切であろう」(山形謙二『主よ、み国を!』190頁)。

「サタンは、神の子供たちを非難し、できれば彼らを絶望におとしいれようとしている。彼は、神の民の悪行と欠点を神の前に述べたてる」(『キリストの実物教訓』148頁)。

「サタンは自分が神の民に犯させた罪を、正確に知っている。そしてサタンは、彼らが罪を犯したから神の保護を受けられなくなったと言って告発し、自分には彼らを滅ぼす権利があると主張するのである。彼は彼自身と同様に、彼らも神の恵みから除外されるべきであると言うのである。『この人々が、天におけるわたしの場所を占め、わたしといっしょになった天使たちの場所を占める人々であろうか。彼らは、神の律法に従うと言っている。しかし、彼らはその戒めを守ったであろうか。彼らは神を愛するよりは、自己を愛したのではなかろうか。彼らは神に仕えるよりは、自分の利益を重んじたのではなかろうか。彼らは、この世の物を愛したのではなかろうか。彼らの生涯を汚した罪を見よ。彼らの利己心、互いに対する彼らの悪意、憎しみを見よ。神は、わたしとわたしの天使たちをみ前から追放しながらも、なお、同じ罪を犯したこれらの人々に、報いをお与えになるのであるか。ああ主よ、あなたはそのようなことを行っては、公平ではない。正義は彼らに対しても、宣告が発せられることを要求する』、とサタンは言うのである。

しかしキリストに従った人々は、罪を犯しはしたけれども、全的に降伏してサタンの手下たちに支配されてはいなかったのである。彼らはその罪を悔い改めて、謙遜と悔恨の念をもって主を求めた。そして助け主であられるイエスは、彼らのために嘆願されるのである。彼らの忘恩によって最もひどい取り扱いを受けられたかた、また彼らの罪を知るとともに、その悔い改めをも知っておられるかたが言われる。『サタンよ、主はあなたを責めるのだ。わたしはこの人々のために、わたしの生命を与えた。彼らは、わたしのたなごころに彫り刻まれている。彼らの品性に不完全なところがある。彼らは、努力して失敗したこともあろう。しかし彼らは悔い改めた。そしてわたしは、彼らを赦し受け入れたのである』」(『国と指導者』下194-195頁)。

「神の民と認められた人々が、汚れた服を着て主の前にたっているように描かれている事実は、主の名前を公言するすべての者が、深く心を探り、謙虚になるように導くであろう。真理に従うことによって魂を清めつつある者たちは、自分に対して最も謙虚な意見を持つであろう・・・しかし、私たちは自分の罪深い状態を自覚すべきである一方、私たちの義、聖化、贖罪としてのキリストに信頼しなければならない。私たちは、私たちに対するサタンの非難に反論することができない。キリストだけが、私たちのために有効な弁護をすることがおできになるのである。キリストだけが、私たちの功績ではなく、彼自身の功績に基づく議論によって、非難する者を沈黙させることがおできになるのだ」(『教会へのあかし』5巻471-472頁英文)。

神の擁護と承認

「二つの制度間の霊的闘争の正邪が裁定され、全宇宙の面前で神が真実な方であるとされるのです。換言すれば、再臨前審判は、サタンや彼に追従する者たちも含むすべての被造物の面前において、聖なる者たちばかりでなく、神をも擁護する働きなのです(ファンデル『ダニエル』95頁)。

「今この時に義を示されたのは、御自分が正しい方であることを明らかにし、イエスを信じる者を義となさるためです」(ロマ3:26)

正しい裁きの擁護と承認

神の正義は、人類の罪に対する罰の償いを要求します。神の愛は、人間を神との交わりへ回復しようとし、神はいかにして、その両方をあらわすことができるでしょうか。

「真実なものを偽りのものからふるいにかけて真実な信徒を救う神の正義を、歡心をもって見守っている宇宙に対して明らかにするため、さばきが再臨前に必要なのです。問題は神と宇宙との間にあるのであって、神と真の神の子との間にはありません」(『アドベンチストの信仰』569頁)。

罪の清め

「このとき、真に悔い改めたすべての者の罪は、キリストの贖罪の血によって、天の書物から消される。こうして、聖所から罪の記録が除かれ、きよめられるのである。象徴においては、この大いなる贖罪のみわざ、つまり、罪を消し去ることは、贖罪の日のつとめによってあらわされた」(『人類のあけぼの』上422頁)

「大争闘は終わった。もはや罪はなく罪人もいない。全宇宙はきよくなった。調和と喜びのただ一つの脈拍が、広大な大宇宙に脈打つ。いっさいを創造されたおかたから、いのちと光と喜びとが、無限に広がっている空間に流れ出る。最も微細な原子から最大の世界に至るまで、万物は、生物も無生物も、かげりのない美しさと完全な喜びをもって、神は愛であると告げる」(『各時代の争闘』下467頁)。

6. 現代人に対する勧告 (ヘブライ 10:19~より)

確信せよ (ヘブライ 10:19~25)

清められよ (ヘブ 10:22)

「その典型的な奉仕は、神とイスラエルとをつなぎとめることであった。いけにえの献げ物は、キリストの犠牲を予表し、それによって来るべき贖い主へのゆるぎない信仰を人々の心の中に保つことを意図していた。それゆえ、主が彼らのいけにえを受け入れ、彼らとともにあり続ける一方で、人々が救済計画に対する正しい知識を持ち、彼らの義務を正しく理解するために最も重要なのは、心の聖さと生活の清さ、神に対する畏敬、神の御要求に対する完全な服従が、聖所に関係するすべての者によって維持されることであった」
(エレン・G・ホワイト『SDA 聖書注解』2巻 1010頁)。

私たちが神に近づきにつれて、聖さのうちに成長することを望んでおられます。このような変化は、私たちの罪深い性質を捨て去り、結果がどうであれ、正しいことをしようという意欲によってのみ生じるのです(『聖所』27)。

愛せよ (ヘブ 10:24)